



E-Communication partner

KINKAN GROUP



人と地球にいい



コミュニケーションパートナー





ありがとう



おかげさまで創業 50 周年を迎えることが出来ました。
100 年企業を目指し更なる努力を怠らず邁進してまいります。
今後ともご支援ご協力をよろしくお願いいたします。



ごあいさつ

近畿環境保全株式会社 代表取締役社長
株式会社湖南リサイクルセンター 代表取締役

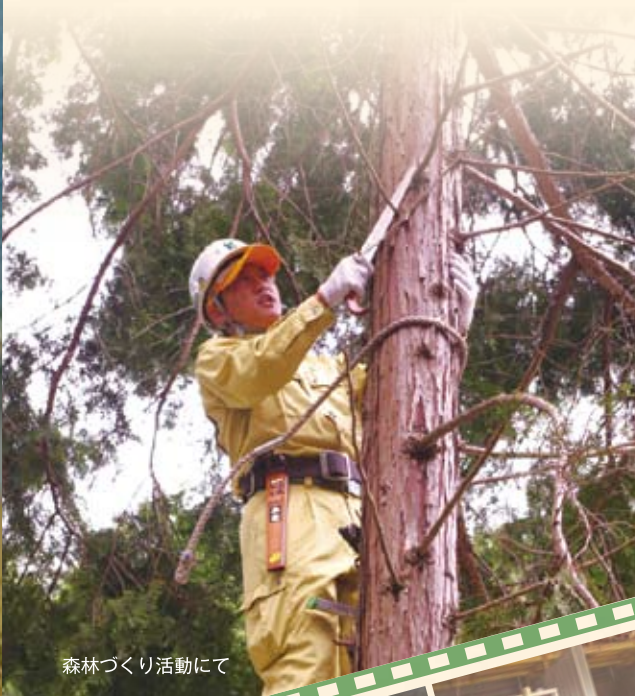
西村 忠浩



今年もこの環境報告書を発行することができました。関わって頂いているすべての方々に深く感謝申し上げますと共に、この報告書を一人でも多くの人に手にとって頂ければと思います。今回で4回目となるこの環境報告書ですが、テーマやデザインを毎回変え、スタッフの手作りであることを重視して作成しています。読んで頂く方々に対して読みやすさ、親しみやすさに重きをおいた構成に心がけています。そういう意味では、地域に根ざした中小企業ならではの環境報告書になったのではないかと考えています。

また、当グループは先代である西村裕司の個人商店創業から、2012年で50年という節目の年を迎える事となりました。これもひとえに、ステークホルダーの皆様からの長きにわたるご支援、ご協力があったの賜だと感謝しています。昨年3月11日に発生した東日本大震災もあり、日本全体が国難ともいえる状況に陥りました。しかし、スタッフみんなで力を合わせて未来を描くことで、目の前の問題をひとつずつ解決し、更なる地域の発展、社業の発展に寄与できるよう取り組んで参りました。その取組みの少しでも、この報告書から感じて頂ければ、そんなにも嬉しいことはありません。

結びに、時代の変化のスピードはさらに早くなり、私たちの業界も激動の時代の中にいます。50周年を迎えた私たちですが、より地域の皆さまとの密接した関係構築、お客様目線でのサービス構築を心がけ、スタッフ一人ひとりのスキルアップを怠らず、これからも弛まなく前進していく所存でございます。引き続きのご指導、ご協力をよろしくお願い申し上げます。



50周年社員懇談会にて

【会社概要】

【社名】近畿環境保全株式会社

【本社所在地】

〒525-0041 滋賀県草津市青地町196

【会社設立】昭和50年6月11日

【資本金】16,000,000円

【ホームページ】www.kin-kan.co.jp

【グループ会社】

株式会社湖南リサイクルセンター

株式会社きぶら

有限会社ラゴ

【事業内容】

一般廃棄物収集運搬業

一般廃棄物中間処理業

産業廃棄物収集運搬業

産業廃棄物中間処理業

特別管理産業廃棄物収集運搬業

資源物再生事業／建設解体業

リフォーム・外構工事／環境機器販売

【グループ従業員数】55名

【報告対象期間】

2011年度(2011年5月1日～2012年4月30日)

※関連する報告で一部この期間が前後している場合もあります。

【報告対象組織】

キンカングループ全社(4社)

【参考にしたガイドライン】

環境省「環境報告書ガイドライン(2007年版)」

【発行日】

2012年10月

【目次】

04. 基本理念、沿革

05. 事業内容

06. 施設紹介

09. 車輛紹介

11. EMS(環境マネジメントシステム)

12. 環境マネジメントへの取り組み

安心・安全なコンプライアンス／安心・安全な事業エリア
安心・安全な仕事環境づくり／安心・安全な施設づくり
目的・目標／維持管理目標／目的目標・維持管理結果表

21. 私たちの取り組み

BDFプロジェクト:地域における循環／カーボンオフセット
グリーン電力／グリーン購入／チャレンジ25

23. 環境保全活動

森林づくり／ヨシでびわ湖を守る活動／清掃活動

25. 地域とのコミュニケーション

環境学習／共働作業所との取り組み
びわ湖環境ビジネスメッセへの出展
地元サッカーチーム「MIOびわこ滋賀」の応援
抱きしめてBIWAKOへの参加

28. 循環型社会の構築に向けて

資源物で琵琶湖の環境保全／古紙で大震災支援活動
滋賀レイクスターズとともに環境活動／エコキャップ推進活動
資源物回収運動(キンカン環境ポイント制度)

31. 受賞報告

32. 第三者のご意見

33. 「環境報告書2011」アンケート集計

あとがき

【基本理念 3K】

感動のK

私たちが行動を起す源は、感動です。感動がないと、人は動きません。

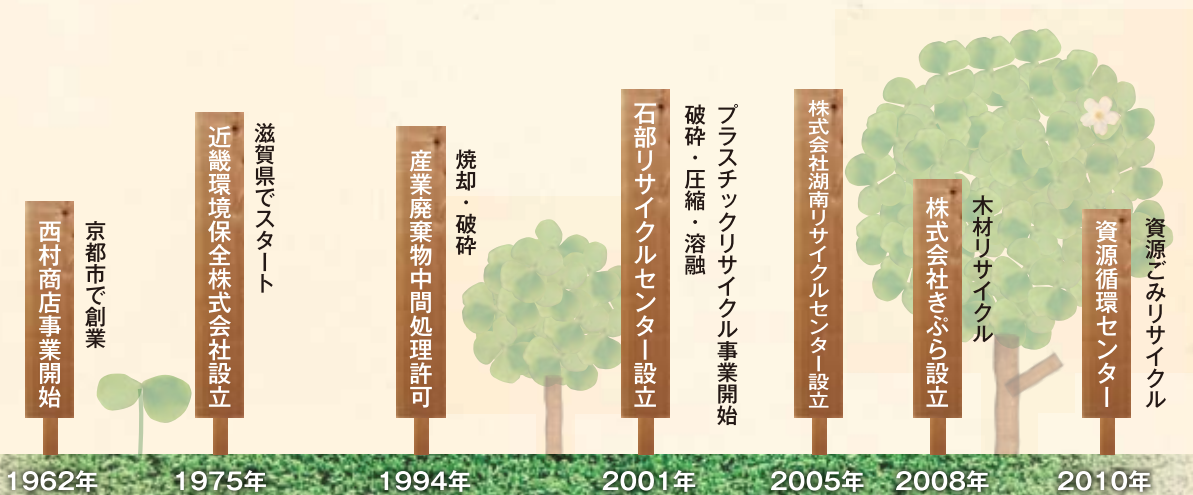
環境のK

私たちの活動指針は、環境です。迷ったときは環境を、最優先に物事を運びます。

改革のK

私たちが考えているのは、常に改革です。改革なくして発展はありません。

この気持ちをスタッフ全員が心に刻み、積極的に挑戦していくグループであり続けます。



【沿革】

- 1962年 創業者の西村裕司が「西村商店」として京都市内で廃棄物回収の事業を始める。
- 1975年 近畿環境保全(株)を設立。
- 1994年 滋賀県で産業廃棄物中間処理業の許可を取得。破碎機と焼却炉で事業を開始。
- 1998年 中間処理業の許可に品目追加。【廃プラスチックと感染性廃棄物の焼却】
- 2001年 「有限会社新生」を設立。プラスチックリサイクル事業に本格的に乗り出す。
- 2002年 湖南市に「近畿環境保全(株)石部リサイクルセンター」を竣工、2003年より本格的に事業開始。
- 2005年 石部リサイクルセンターを別法人に分社化、「(株)湖南リサイクルセンター」として現在に至る。この時に子会社の新生も合併。総合リサイクルセンターとして事業拡大。
- 2008年 (株)きぶらを設立し、5月より廃木材をチップ化しリサイクルする新工場を竣工。
- 2009年 西村忠浩が近畿環境保全(株)の代表取締役社長に就任。西村裕司が近畿環境保全(株)の代表取締役会長に就任。
- 2011年 (株)きぶらの木材チップ製造施設を(株)湖南リサイクルセンターに譲渡。湖南リサイクルセンターにおいて、木くずの破碎施設許可を追加取得。

日本の廃棄物に関する法律の歴史

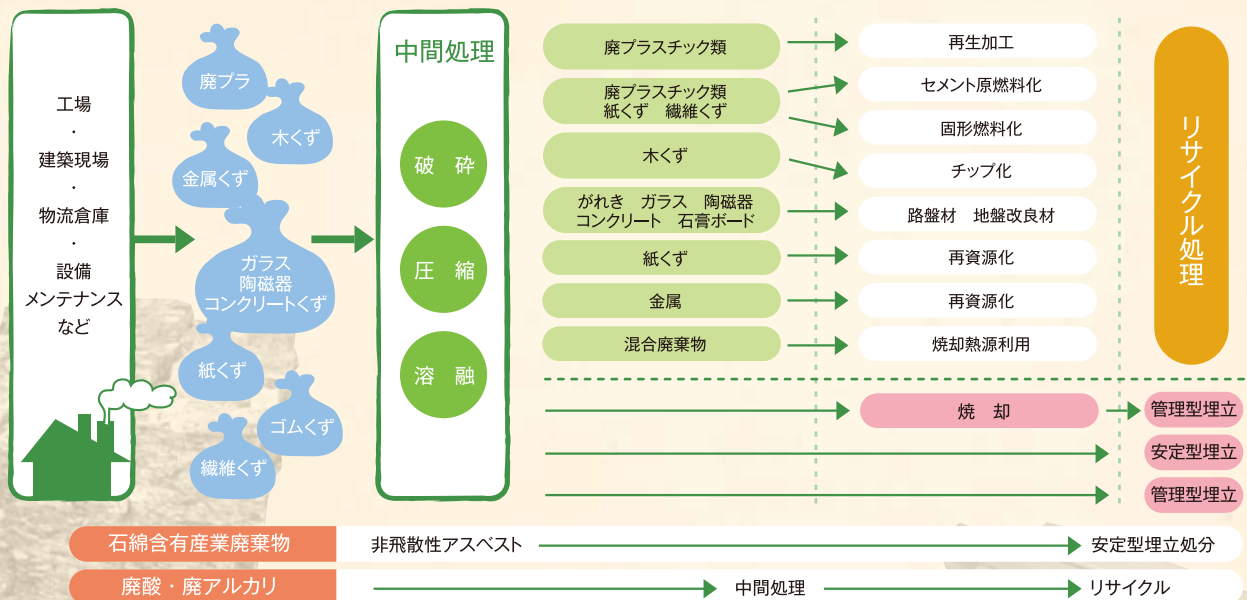
- (環境省)
- 1954年 清掃法
- 1971年 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- 1991年 再生資源の利用の促進に関する法律
- 2000年 容器包装リサイクル法
- 2001年 循環型社会形成推進基本法
廃棄物処理法
資源有効利用促進法
家電リサイクル法
グリーン購入法
食品リサイクル法
PCB特別措置法
- 2002年 建設リサイクル法
自動車リサイクル法

【事業内容】

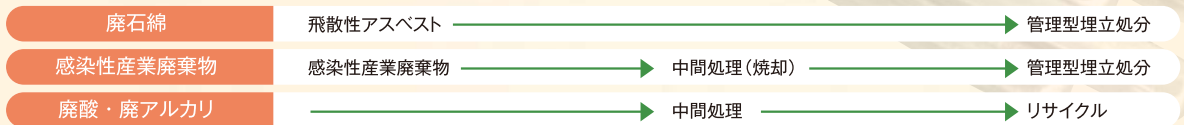
事業系一般廃棄物（収集運搬）



産業廃棄物（収集運搬・中間処理）



特別管理産業廃棄物（収集運搬）



建築解体業

T-POINT が貯まります!



当社グループ内で解体から廃棄物の収集運搬、処理まで一貫施工

湖南リサイクルセンター



ゼロエミッション工場

株式会社湖南リサイクルセンターでは産業廃棄物処理と再資源化を行っています。

廃プラスチック類、木くず、紙くず、繊維くず、ガラス・陶磁器・コンクリートくず、金属くずなど全部で8品目を取り扱いますそれぞれの処理先に適正な選別をし、中間処理を行い、マテリアルリサイクル、サーマルリサイクルに繋がります。その後残渣を適正処理いたします。



マテリアルリサイクル

搬入される廃棄物から有価物のプラスチックを当工場で粉碎、圧縮、溶融加工し、国内外に売却しています。また、塩ビパイプ専用の粉碎機を導入し、更にリサイクル率を向上させています。処理されたプラスチックは国内外にてペレット化され、新しいプラスチック商品に生まれ変わります。



ゼロエミッションリサイクル

セメントリサイクル

マテリアルリサイクルに適さない廃プラスチックを圧縮し、株式会社トクヤマで原料及び燃料化しています。

100t/日
処理能力

廃プラスチック類(塩ビを除く)

圧縮処理



プレス梱包された廃棄物

株式会社トクヤマにてセメントの原料化としてリサイクル

ゼロ
エミッション
達成

固形燃料(RPF)リサイクル

廃プラスチック、紙くず、繊維くずやその混合物は圧縮処理後、RPF 製造工場で固形燃料化され、製紙会社のバイオマスボイラーにて使用されます。

100t/日
処理能力

廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず(塩ビを除く)

圧縮処理



プレス梱包された廃棄物

製紙会社にてバイオマスボイラーに使用しリサイクル



固形燃料

サーマルリサイクル

セメントにも、RPFにも適さない廃棄物は、当社にて破碎処理後、発電や廃熱利用を行うサーマルリサイクル施設で処理されます。焼却後の残渣もメタル・スラグとして利用されています。

200t/日
処理能力

廃プラスチック類、金属、木くず、紙くず等混合物廃棄物、複合廃棄物

破碎処理



破碎処理された廃棄物

排熱を発電に利用後、灰をスラグ・メタルとしてリサイクル

湖南リサイクルセンター



木材チップ用破碎施設

2011年6月に湖南リサイクルセンターに譲渡し、木くず破碎施設許可を追加取得しました。種類ごとに搬入された木くずを、破碎施設によりチップ化します。木材チップが製紙や建材原料として利用されています。原料にならないものはバイオマスボイラーの燃料や、堆肥として活用しています。自然の大事な恵みを有効に再利用することを目的に、木材のリサイクル率の100%を目指しています。



木くずを有効にリサイクルします。

製紙原料や
建材原料となる
純木パレット、
梁、柱材など

バイオマスボイラーや
堆肥となる合板、
腐敗パレット、生木、
枝葉、刈草など

1 重機で木くずを投入します。

2 木くずを粉碎してチップを製造します。

5 木材チップ運搬車にて出荷

4 できあがった木材チップ

3 釘などの金属は磁力選別機により分けられます。



- 製紙原料チップ
- 建材原料
- バイオマスボイラー燃料チップ
- 堆肥



有価物として
売却されます。

新たなリサイクル先ができました!

WeedLock「森のれんが」

車輦が乗れる唯一の木質成型舗装材「森のれんが」
当グループ木材チップを原材料に、木の樹脂で固化した木質100%リサイクル素材で、初めて車輦の乗り入れ基準をクリアした製品です。環境にやさしい無公害で、高い断熱効果とヒートアイランド現象の防止効果がありますので、駐車場や歩道、外構周りなどの屋外でご利用下さい。

NEW
リサイクル商品

木の温もりを感じ周囲の景観との調和が取れるライフスタイル

【パートナー企業コメント】 株式会社SION 代表取締役 原 三郎 様

近畿環境保全株式会社様とは、びわ湖環境ビジネスメッセの出展者同士でお話をさせて頂いた事がきっかけで、お付き合いさせて頂いております。間伐材や廃材・古材等が私ども製品「WeedLock」の原材料となるため、CSR活動の一環として子供たちと一緒に現地で間伐材の粉碎を行い資源のしくみや大切さを話ながら野外環境学習の活動をしております。「WeedLock」は100%自然素材であるため最終的に土に還るという循環型リサイクル製品として、今後も近畿環境保全株式会社様と共に循環型社会や環境問題に力を入れ、活動を進めていきたいと思っております。



資源循環センター



ダンボールや故紙、空き缶、発泡スチロール、ペットボトル等の資源物をリサイクルする再生施設です。可燃ごみの収集車とは別に2tアルミ車にて収集を行い、資源物を巡回回収しています。お客様のお持込みにも対応しており、有価物として買取っています。



資源循環センターは資源物に特化したリサイクルセンターです。

回収



選別圧縮機



製鋼原料として再生



圧縮処理された空き缶

大型圧縮機



プラスチック原料、製紙原料として再生



圧縮処理されたダンボール・ペットボトル

溶融機



プラスチック原料として再生



溶融処理された発泡スチロール

処理した資源物はすべて有価物として販売しています。

車輛紹介



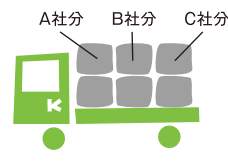
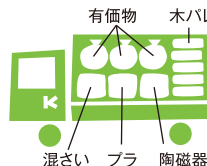
最適な車輛を手配し、お客様のもとへ

KINKANグループが保有する運搬車輛の種類は以下のように豊富です。幅広くお客様のニーズと出される廃棄物に合わせ、最適な車輛を手配し、お客様のもとへお伺いいたします。

ECO回収サービス対象車

まとめて大量同時運搬でエコ

効率のよいルートでエコ



15t 低床WING 車

台数：2台(15t)



段積み、リフトでの積み込みが可能です。小コンテナやフレコンバッグなどの積み合わせにも適しています。一度に多量の荷物を運ぶことができます。

平ボディ車

台数：1台(9t)



コンテナやフレコンバッグなどの小サイズ容器の積み合わせが可能です。

ユニック付平ボディ車

台数：1台(4t)



ユニックで釣り上げての積み込みが可能ですので、リフトをお持ちでないお客様のもとへもお伺いできます。様々なコンテナの積み合わせや小コンテナの交換が可能です。

パッカー車

台数：1台(9t)、9台(4t)



圧縮しながら積み込みする車輛です。重量は軽いけれど圧縮できる廃棄物を、大量に積み込むことができます。

ユニック付アームロール車

台数：1台(4t)



ユニックで釣り上げての積み込みが可能ですので、リフトをお持ちでないお客様のもとへもお伺いできます。様々なコンテナの積み合わせや小コンテナの交換が可能です。

2tアルミ車、軽トラック車

台数：各2台



資源物の回収に最適です。お客様の廃棄物の中から分けていただいた資源物を丁寧に運搬し、後ほど効率よくリサイクルできます。

計量器付きパッカー車 台数：3台(3t)



巡回回収を行っていても、個別に重量計量ができる計量器付きのパッカー車です。

アームロール車

台数：3台(10t)、3台(9t)、6台(4t)、2台(2t)



当グループのスタンダード車輛です。コンテナ(荷台)がそのまま降ろせ、廃棄物排出の都度、コンテナに投入していただけます。コンテナ交換が可能です。

タンクローリー

台数：1台(最大容量 9700ℓ)



タンクローリーは廃液の収集運搬車です。

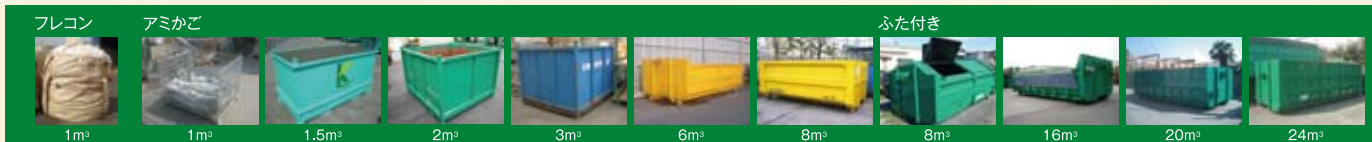


冷凍車

台数：1台(3t)



低温から中温、加温仕様まで、各種廃棄物に対応した最適温度を保持する冷凍車を追加し、お客様のニーズに合うサービスを拡大してきました。



コンテナ一覧

主な環境活動の紹介

KINKAN グループは地域社会との調和を目指し
さまざまな環境活動を展開しています。

環境マネジメントへの取り組み P11

P11.EMS(環境マネジメントシステム) P12. 安心・安全なコンプライアンス
P13. 安心・安全な事業エリア P14. 安心・安全な仕事環境づくり
P16. 安心・安全な施設づくり P17. 目的・目標
P19. 維持管理目標 P20. 目的目標・維持管理結果表

私たちの取り組み P21

BDFプロジェクト:地域における循環/カーボンオフセット
グリーン電力/グリーン購入/チャレンジ25

環境保全活動 P23

森林づくり/ヨシでびわ湖を守る活動/清掃活動

地域とのコミュニケーション P25

環境学習/共働作業所との取り組み/びわ湖環境ビジネスメッセへの参加
地元サッカーチーム「MIOびわこ滋賀」の応援
抱きしめてBIWAKOへの参加

循環型社会の構築に向けて P28

資源物で琵琶湖の環境保全/古紙で大震災支援活動
滋賀レイクスターズとともに環境活動/エコキャップ推進活動
資源物回収運動(キンカン環境ポイント制度)

【EMS】 環境マネジメントシステム



当グループは、資源リサイクルと廃棄物の収集運搬及び中間処理業を3本柱とし、適正に再資源化、処理を行う上で、循環型社会の構築に努めます。

「人と地球に“いい”コミュニケーションパートナー」 E-COmmunication partner

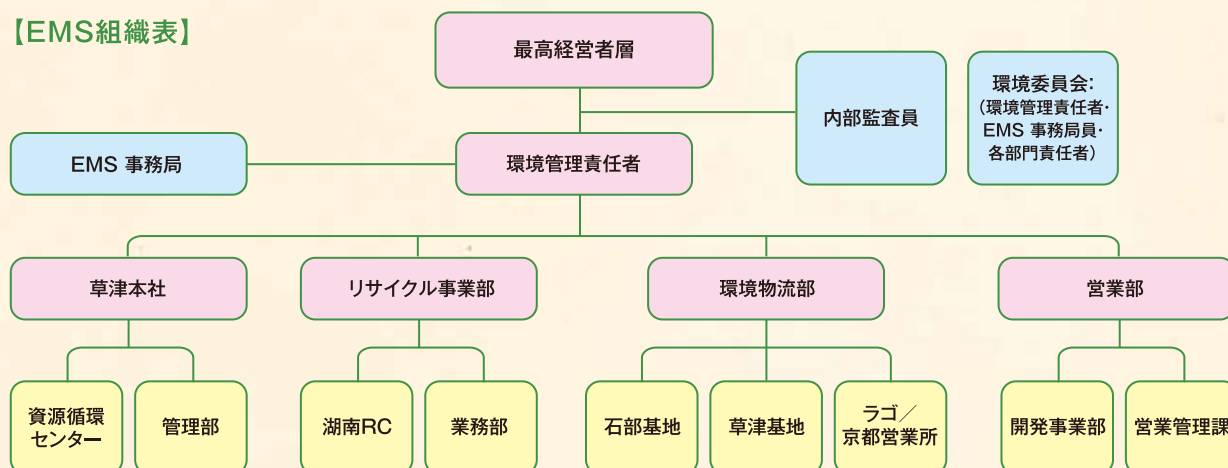
をキャッチフレーズにかけがえのない地球を大切にしたい。
そんな気持ちの実現を目指し、自然との共生を目指します。

環境活動方針

- 1 廃棄物を資源と認識し、適正に再資源化、再利用、再生利用、処理することに努めます。
 - ① 資源の有効利用と、社内から出る廃棄物の分別及び再資源化に努めます。
 - ② 中間処理後産業廃棄物のリサイクル率向上に努めます。
 - ③ 地域に根ざした環境事業の推進で、地域社会の貢献に努めます。
- 2 環境関連法規制・条例及び当社が同意するその他の要求事項を遵守します。
- 3 事業活動から生じる環境負荷を低減するため、具体的環境目的・目標を定め、環境マネジメントシステムを継続的に改善することにより、環境汚染の予防に努め、環境保全活動を推進します。
- 4 全構成員が、環境保全事業に従事する自覚を持ち、常に環境に配慮した行動を心がけるよう周知し、環境に関する教育及び啓蒙を行います。
- 5 本方針を実行し、維持し文書化して、全構成員に周知徹底するとともに、社外にも情報開示します。

2005年9月6日 現在

【EMS組織表】



安心・安全なコンプライアンス

環境関連法規制の遵守評価

事業者の産業廃棄物はその事業者自らが処理しなければならない原則がありますが、処理ができない場合は、廃棄物処理業者に委託することが出来ます。当グループは排出事業者の皆さまから、収集運搬と処分を委託して頂きます。様々な地域における収集運搬業許可と処分業許可を取得し、法を遵守した適正処理を行っている上、廃棄物の流れをマニフェストによって最初から最後まで管理しています。当グループは右記の環境関連法律・条例・協定を遵守しています。

法律・条例

- 廃棄物の処理及び清掃に関する法律
- 滋賀県生活排水対策の推進に関する条例
- 消防法 ● 建設業法 ● 浄化槽法
- 労働安全衛生法 ● 道路運送車輛法
- 計量法 ● 滋賀県ごみの散乱防止に関する条例
- 騒音規制法・振動規制法・悪臭防止法
- Nox・PM法 ● フロン回収破壊法
- 資源有効利用促進法 ● 石綿障害予防規則
- 建設工事に係る資材の再資源化等に関する法律

【スタッフコメント】

今年は計画停電と言う問題に対し企業や個人で節電の意識が高まりました。グループ内でも知恵を絞り効果的かつ効果的な社員教育を活用しながら、いかにしてモチベーションを高めていくかが課題となっています。今後もステークホルダーと共に更にCSRを推進し信頼され満足して頂けるような取組を進めて行きたいと思っています。



コンプライアンス室 室長
永戸 浩一

廃棄物処理の際に発生する騒音、臭気、振動が周辺の方々にご迷惑が加からず、環境への負担も少なくするために、騒音、振動と臭気に関して毎年調査を実施しています。基準に対するレベル状態を評価し、よりよい環境づくりに努力しています。以下に当グループの2011年度のデータを示しています。

騒音レベルと振動レベルの調査結果と評価

騒音と振動のレベルに関する調査を毎年一回当グループの2社にて行います。2011年度の調査結果によれば、実際の騒音レベルと振動レベルは規制基準値以下でした。

騒音レベル	株式会社湖南リサイクルセンター	近畿環境保全㈱
規制基準	65dB	65dB
調査結果 (場所/No1)	53dB	60dB
(場所/No2)	57dB	54dB
評価	○	○

2011年6月2日実施

振動レベル	株式会社湖南リサイクルセンター	近畿環境保全㈱
規制基準	70dB	70dB
調査結果 (場所/No1)	39dB	37dB
(場所/No2)	44dB	35dB
評価	○	○

2011年6月2日実施

臭気測定の結果と評価

臭気レベルに関する調査の結果は、規制基準値以下でした。

	株式会社湖南リサイクルセンター 2011年6月7日実施	近畿環境保全㈱ 2011年10月11日実施
規制基準	敷地境界線14	12
試験の結果(臭気指数) (場所/No1)	10以下	10以下
(場所/No2)	10以下	10以下
評価	○	○

水質

放流水に関してもデータ管理を行っており、年一回水質に関する調査を自主的に実施しています。

計量対象項目	単位	計量の結果		計量の方法
		株式会社湖南リサイクルセンター	近畿環境保全㈱	
ノルマルヘキサン抽出物質含有量	mg/L	0.5未満	0.5未満	環境庁告示第64号付表
大腸菌群数(デソ)※	個/ml	0	140	厚生省・建設省令第1号
水素イオン濃度		7.6	7.1	JIS K0102 12.1
(pH測定時試料温度 ※)	℃	20.6	21.5	JIS K0102 7.2
浮遊物質	mg/L	2.3	1.8	環境庁告示第59号付表
化学的酸素要求量	mg/L	7.3	15.3	JIS K0102 17
生物化学的酸素要求量	mg/L	2	49	JIS K0102 21及び32.3
燃含有量	mg/L	0.1未満	6.5	JIS K0102 46.3
窒素含有量	mg/L	0.8	34.8	JIS K0102 45.2

※印項目は、計量証明対象外項目です。

2011年10月11日実施

安心・安全な事業エリア

許可都道府県及び許可品目

当グループは産業廃棄物収集運搬、一般廃棄物収集運搬、特別管理産業廃棄物収集運搬、廃棄物の中間処理に関し幅広く許可を取得しています。2011年4月から滋賀県の湖北地域においても一般廃棄物を回収するようになりました。

燃え殻	汚泥	廃油	廃酸	廃アルカリ	廃プラスチック類	紙くず	木くず	繊維くず	動植物性残渣	ゴムくず	金属くず	ガラス・陶磁器くず	鉱さい	がれき類	ばいじん	特管 腐食性廃酸	特管 腐食性廃アルカリ	特管 特定有害廃酸	特管 特定有害廃アルカリ	特管 感染性産業廃棄物	特管 特定有害廃石棉等	品目数
-----	----	----	----	-------	----------	-----	-----	------	--------	------	------	-----------	-----	------	------	-------------	----------------	--------------	-----------------	----------------	----------------	-----

※特管:特別管理産業廃棄物

◎ 産業廃棄物・特別管理産業廃棄物 収集運搬業 近畿環境保全(株)

石川県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○							14
福井県	○	○				○	○	○	○	○	○	○								○	○	2
岐阜県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○			15
静岡県						○	○	○	○	○	○	○										5
愛知県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○			8
三重県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○			14
滋賀県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○	○		5
京都府						○	○	○	○	○	○	○								○	○	16
大阪府	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○			6
兵庫県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○			12
奈良県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○				○	○	○	○			16
岡山県	○	○				○	○				○	○	○	○	○							5
広島県						○	○	○	○		○	○	○									16
山口県	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○	○										5
香川県						○	○	○			○	○	○	○	○							16

※普通産廃は石綿含有産業廃棄物を含む

◎ 一般廃棄物 収集運搬業 近畿環境保全(株)

愛荘町、大津市、草津市、湖南市、彦根市、守山市、野洲市、栗東市、湖北広域	
京都市 (南ラコ)	

◎ 中間処理業 近畿環境保全(株)

砕 破	廃プラスチック類、ゴムくず、金属くず、ガラス・陶磁器くず	4
-----	------------------------------	---

◎ 中間処理業 (株)湖南リサイクルセンター

破 砕	廃プラスチック類、紙くず、木くず、繊維くず、ゴムくず、金属くず、ガラス・陶磁器くず、がれき類	8
破砕(石膏)	陶磁器くず	1
圧 縮	廃プラスチック類、紙くず、繊維くず、金属くず	4
溶融(発泡)	廃プラスチック類	1
破砕(一般廃棄物)	廃プラスチック類、木くず、がれき類	3

※2012年9月1日現在

一般廃棄物 収集運搬許可



産業廃棄物 収集運搬許可



安心・安全な仕事環境づくり

安心であり、安全な仕事環境づくりに努めています。
仕事や作業の危険性を把握し、発生しないため、
あるいは危険性を削減するための対策を企画しています。

当グループにとって最も重大な緊急事態は火災です。災害時を特定し、緊急事態に対応するための手順を決定しています。実際に緊急事態が発生した場合、対応を行なった後、必要であれば手順を見直します。決定された手順が緊急事態の際、順調に実施できるように定期的に社内勉強会と訓練を行っています。



【消防訓練】
KINKANグループ
3社にて消防訓練を
実施しました。

火災以外の事故時に関しても 毎年数回訓練や勉強会を行っています。

構内で使用されている重機、リフトによる事故防止訓練と勉強会を実施しました。また、収集運搬の時に発生した油もれの際、すぐに流出を防ぐことが出来る吸着セットを全車輛に設置し、講習を行いました。



2011年10月TCM様による勉強会



キャタピラに関する勉強会



油もれ対策の訓練



安全委員会

安全委員会は「無事故・無災害」という目的で立ち上げられた委員会です。メンバーはリサイクル事業部、環境事業部（物流部門・資源生産部門）、開発事業部、営業部及び本社の各担当であり、月に一回定期会議を行っています。工場・ドライバー各部署の危険箇所などを挙げ、改善策を話し合っている委員会です。定期会議だけではなく、安全パトロールや勉強会なども実施しています。

安全パトロールでは、週一回各現場を委員が見回っています。勉強会が月一回各部署、年二回全体で行われ、危険予知（KY）活動やリスクアセスメントについて学びます。2012年4月に危険箇所の把握方法や改善方法に関する研修会を行いました。工場内の危険箇所を探し、解決まで考え、発表してもらいました。



工場内での危険予知活動



定期会議



勉強会



【スタッフコメント】 業務部情報処理課 主任 佐々木 友彦

2010年に発足した安全委員会も、組織化・規定化され形になってきました。おかげ様で創立50周年というこの年を安全元年という気持ちで安全委員会のメンバーとして携わっていきたいと思います。定期的にヒヤリ・ハットやリスクアセスメントを行い、自分達で危険な箇所・作業を挙げ、それに対して色々な意見を出し合い改善していく事で、安全に対する意識が高まっています。また、それだけではなく会社の仲間とコミュニケーションが取れる場にもなっている為、非常に重要な取り組みだと思えます。

安心・安全な仕事環境づくり

滋賀県唯一のエコスタッフ・ジャパン認定企業

2011年からKINKANグループはエコスタッフ・ジャパン認定企業となりました。基準を満たした当グループはESJネットワークにおいてさらにスキルアップし、お客様に安心・安全で、よりよいサービスをさらに提供できるよう努めていきます。



廃棄物処理・リサイクル
「安心・安全」の全国ネットワーク
エコスタッフ・ジャパン

全国における認定された 優良な廃棄物処理業者のネットワーク

- 「環境省などからの最新情報・法律」
- 「物流・営業への研修機会」
- 「基準に合わせた育成」
- 「情報交換・全国における交流の場」

【エコスタッフジャパン コンセプト】

- 優良な廃棄物処理・リサイクル企業を全国ネットワーク化
～全国どこでも「安心・安全」の処理ができる企業集団とブランドを構築～
- 認定基準を定め、サービス品質を全国標準化
～排出事業者の「不安、不満」を「安心・満足」できるサービスに～
- わかりやすく、排出事業者で紹介・PR
～コンプライアンスと説明責任を果たし、「不透明」から「透明」へ～
- 全国の廃棄物処理・リサイクルを一元的コーディネート
～透明性とトレーサビリティを備えたシステムで～
- リサイクル製品・原料の普及を図る
～価値あるリサイクル品を適正価格で～



営業研修



物流担当の研修



大震災がれきの見学

【パートナー企業コメント】 エコスタッフ・ジャパン株式会社 代表取締役 田部 和生 様

エコスタッフ・ジャパン株式会社（以下：ESJ）は全国の優良な廃棄物処理・リサイクル企業のネットワークを運営しております。現在全国に37社の認定企業があり、KINKAN GROUPは滋賀県で唯一の認定企業となります。ESJネットワークは情報公開性など独自の評価基準をクリアした優良企業のみで構成され、お客様に「安心・安全」にご利用頂けるよう、高いレベルでの教育研修を実施しております。KINKAN GROUPはこれらの研修会にも積極的に参加され、中でも直接お客様と接することになるドライバーへの教育、2011年10月にスタートした優良ドライバー検定には特に重点的に取り組んでおられます。全国レベルでの「安心・安全」を実現するために、自社サービスを常に見直し、改善を目指すこれらの取り組みに敬意を表したいと思います。





安心・安全な施設づくり

廃掃法

「排出事業者は、産業廃棄物の運搬・処分を他人に委託する場合には、当該産業廃棄物の処理の状況に関する確認を行った上で、最終処分終了までの一連の処理行程における処理が適正に行われるために必要な措置を講ずるよう努めなければならないこととする。」

環境省大臣官房廃棄物・リサイクル対策部産業廃棄物課

2011年に廃棄物の処理及び清掃に関する法律（廃掃法）が改正され、排出事業者責任は一段と強化され厳しくなりました。

廃棄物処理についての情報をお客様に提供するだけでなく、お客様自らが、処理の確認をご希望であれば、当グループにおいても、最終処分地においても視察や確認が随時可能となっています。また、環境学習のために工場見学をしていただくことも可能です。

お客様が安心できる処理を提供するために当社も最終処分地の視察、処理の確認を行っています。最終処分地が適正であると確認した後、お客様に提案します。



資源循環センターの見学

【見学者のコメント】

豊郷町廃棄物減量等推進協議会
会長 内藤 善信 様



今回見学をさせていただいて、私たちの日々の生活から生み出されるゴミの量の多さに、大変驚きました。近畿環境保全では、ゴミとして出されたものが、人の手によってリサイクルされやすい状態に、仕分けされていました。ここでは、私たちの知っているアルミ缶やスチール缶だけではなく、家の解体時に出た廃材までが、製紙原料・建築材料・堆肥等に再利用されている事を知り、大変感動しました。今まで、ゴミとして押しやっていたものも、地球の大事な資源である事に気づきました。少しでもゴミという名称のものが減り、より多くのものが活用されていく事を強く望みます。



湖南リサイクルセンターの視察



豊郷町廃棄物減量推進協議会の方が
見学にお越しくださいました



福祉団体から見学に来ていただきました

処分地の確認

当グループで中間処理された廃棄物は、処分地に運搬されます。お客様が安心できる処理を提供するために当社も最終処分地の視察、処理の確認を行っています。最終処分地が適正であると確認した後、お客様に提案します。

エビス紙料機の視察



【スタッフコメント】 営業部営業管理課 課長 西村 篤

リサイクル処理先、最終処分先の確認は、我々はもちろん、排出事業者であるお客様にとっても大変重要なことです。お忙しい中、処分先の確認に現地へ行けないお客様に代わり、プロの目線でしっかりと処分先を確認してまいります。

また、当社の視察はもちろん、お客様との処分先の視察同行をすることも致します。ぜひ、お声かけください。



目的・目標



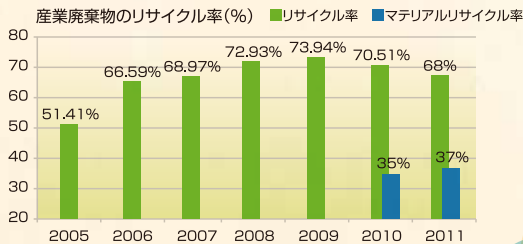
湖南リサイクルセンター

産業廃棄物のリサイクル

37%
マテリアル
リサイクル率
目標達成

産業廃棄物の中間処理に特化した湖南リサイクルセンターにて年々リサイクル率の向上に努めています。細かい選別やリサイクル先と再利用の方法の増加により環境へ配慮した処理を行っています。また、お客様にゼロエミッションを提案しています。

2011年度から新たな目標を立て、産業廃棄物の中、マテリアルリサイクルされる廃棄物（以下有価物）の割合を把握し、年々向上させることとなりました。マテリアルリサイクルにつなげた「有価物」の割合は2011年度に立てた28%の目標を上回り、約37%となりました。処理された産業廃棄物からリサイクル（サーマルリサイクルなどを含め）された廃棄物の割合は約68%でした。



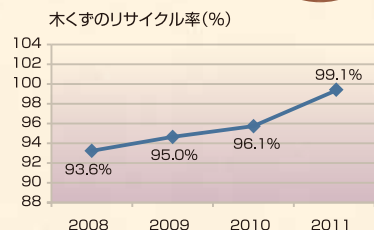
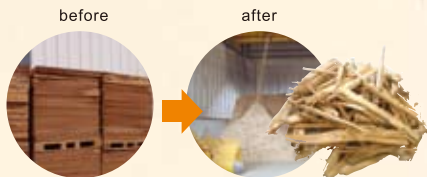
木材チップ化施設

木くずのリサイクル

99.1%
リサイクル率
目標達成

パレットや生木などの木くずをより効率的に再利用するために、専用の破砕施設を設けています。

2011年より木材チップのリサイクル先が増えたため、木材チップを新たな方法で再利用できるようになりました。当社木材チップは製紙原料、堆肥および燃料への利用に加え、WeedLockなどに使われるようになりました。2011年度の木くずリサイクル率は9割の目標を上回り、99.1%でした。

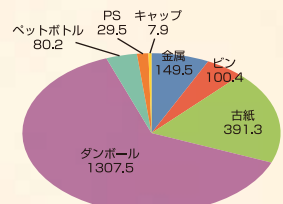


資源循環センター

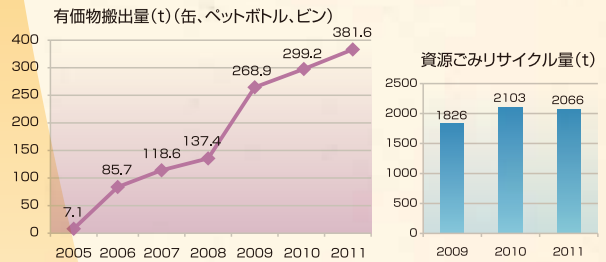
資源ごみのリサイクル

28%
リサイクル量
増加達成

当社回収している事業系一般廃棄物の中にある資源物の処理に特化している資源循環センターにて年々資源物の搬入が増えています。2011年度には3%増加の目標を超え、缶、ペットボトルとビンのリサイクル量は昨年より28%増加しました。



2011年度資源ごみリサイクル量 (t)



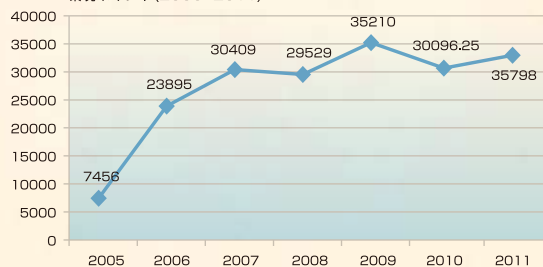
環境ポイント運動

80ポイント
環境ポイント
目標達成

2005年よりスタッフの取り組みとして、毎年継続して資源物回収運動を行っています。従業員の皆に缶、ペットボトル、新聞などの資源物を収集してもらい、一個あるいは一キロごとにポイントを付けます。毎年、資源物を多く集めたスタッフを表彰します。この取り組みは現在ISO14001の目標の一つであり、年々目標のポイントを上げています。2011年度の目標数字は一人当たり80ポイントであり、スタッフの71%が目標を達成できました。合計35798ポイントが与えられました。



環境ポイント(2005-2011)





当グループは2005年に環境マネジメントシステムのISO14001を取得しました。毎年、環境へ与えている負担を把握し、それを削減するために、年々高い目標を立てて環境経営を行っています。2011年度にはリサイクル率をさらに高めることやグリーン購入率、スタッフの環境ポイントの増加などを目指して、達成できました。

低公害車輛の導入

5台
低公害
車輛購入

当グループは収集運搬業を行っているため、車輛を多く使用しています。環境への負担を減らすために低公害車輛をできるだけ多く導入しています。2013年度まで3台を導入するのは目標でしたが、2011年度には低公害車輛を新たに5台購入しました。導入した車両はNox・PM対応車だけでなく、平成27年度燃費基準達成車及び、平成13年騒音規制車です。これにより運搬の際の公害を削減しています。



情報ポイント

65ポイント
情報ポイント
達成

2011年には営業部の目的目標に新しい取り組みとして、情報ポイントを追加しました。営業部で工場の施設や産廃情報ネット、ホームページ、Facebookを通じ情報発信をしています。お客様への情報を発信するにあたり情報ポイントが付きます。今年は把握する年であり、65ポイントが付けられました。これから年々向上する予定です。排出事業者の皆様安心して頂けるよう、今後も積極的に情報開示を行ってまいります。



グリーン購入率

74%
グリーン購入率
目標達成

2009年よりグリーン購入ネットワークの会員として、文具や事務用品を購入する際、できるだけ環境配慮型商品になるよう選択しています。2011年度では、購入金額の4割を目標に掲げていましたが、実際74%がグリーン購入となり、目標を高く上回りました。



【スタッフコメント】

情報ポイントを始めた1年目の今年、法改正があったことも含めて多数のお客様に弊社施設へ視察にお越し頂きました。来年からの目標値を設定する上でも高い目標となり、さらに情報発信をすればする程お客様に弊社の取り組みを知って頂く機会となります。

ホームページとFacebookページの更新は広報委員会を中心に、処理工場の視察は営業部が中心となって発信し続けていき、お客様に限らず多数の方に「来て、見て」頂けるような物にしていければと思います。

ご興味のある方は是非ともお問い合わせ頂き、お越し頂ければ幸いです。



営業部責任者
西村 幸佑

維持管理目標

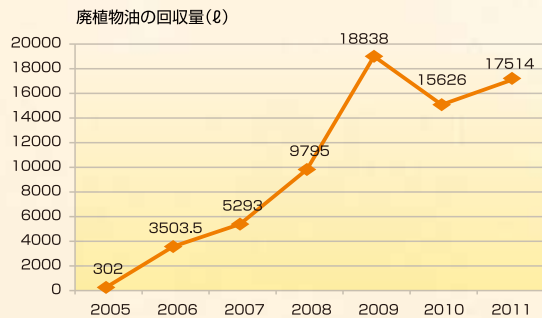
当グループでは、事業をしている中で、どうしても削減・増加しにくい、あるいは削減・増加の目標をたてることのできない項目については、維持管理を行い、データにより項目の状況を把握しています。そういったことにより項目を意識し、なるべく削減・増加できるように心がけています。2011年度の維持管理項目は、廃植物油と木くずの回収量、CO₂の排出量、BDF給油、LPガス・電気・水道の消費量、紙の使用料・排出量、車輛燃費、産業廃棄物でありデータ管理を行いました。

廃植物油の回収

油のリサイクル

12%
油回収量
増加達成

廃植物油のリサイクルを推進し、当社が廃油を回収し、バイオディーゼル燃料を自車両にも使用しています。年々廃植物油をリサイクルに回していただいているお客様が増え、活動がCO₂削減への取り組みにも使われています。2011年度の回収量は、17,514ℓであり、昨年度より12%増えました。



BDF給油

20%
増加達成

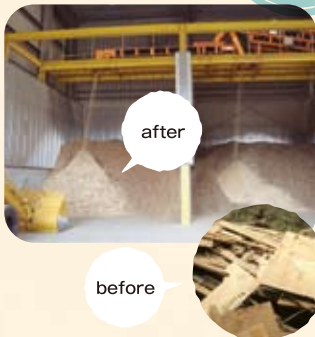
回収した油から精製したBDFを当グループの収集運搬車両に使用しています。そういった事により循環型社会の実現に貢献するとともに、二酸化炭素の排出抑制にも一躍を担っています。



木くずの回収量

28%
増加達成

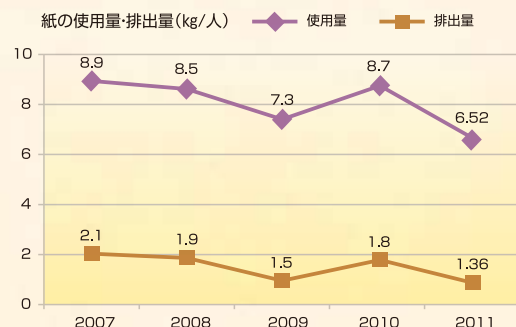
当グループにおける木くずのチップ化施設への搬入量を年々管理しています。2010年から増加し、2011年度には4000トンを超えました。



紙の使用量

25%
削減達成

紙は事務所で必要不可欠なものです。なるべく使用量を減らし、裏紙を使うようにしています。使用済み古紙を当社資源循環センターにて圧縮し、製紙会社に売却しています。2012年度に紙の使用量を削減できました。



目的目標・維持管理結果表

目的目標の達成状況

タイトル	環境方針	環境目的	2011年度末	目標達成結果
環境ポイント制度	地域に根ざした環境事業の推進で地域社会の貢献に努めます。	全構成員は環境ポイントを2013年までに270ポイント以上獲得する(2011年度 80p 2012年度 90p 2013年度 100p)	80P以上 合計80p	○
グリーン購入		グリーン購入対象商品を、2011年度末までに月額事務用品購入金額の総額の40%達成	40%達成	○ 実績74%
廃棄物リサイクル率の向上	中間処理後産業廃棄物のリサイクル率向上に努めます。	中間処理後産業廃棄物の受入量対有価物排出量の比率の向上。2013年度末までに30%達成	1%向上 28%	○ 実績36.9%
資源ゴミ(有価物)リサイクル率の向上	資源の有効利用と社内から出る廃棄物の分別及び資源ゴミの再資源化に努めます。	2013年度末までに、有価資源ゴミ(ビン・缶・ペット)の排出数量を3%向上	1%向上 302.2t	○ 実績381.6t
木くずリサイクル率の向上	地域に根ざした環境事業の推進で地域社会の貢献に努めます。	木材チップ排出量と木くず搬入量の比90%以上を達成	90%以上	○ 実績99.1%
低公害車の導入		Nox・PM対応車を2013年までに3台増車する	1台以上	○ 実績4台
情報発信件数の増加	地域に根ざした環境事業の推進で地域社会の貢献に努めます。	当社の情報発信件数を増加する	実績を把握する 実績65件	○ 実績65件

維持管理項目の状況

	数量	単位	昨年よりの変化
廃植物油の回収	17514	ℓ	12%増
BDF給油	11350	ℓ	20%増
木くずの回収量	4369.3	トン	28%増
紙の使用量	6.52	kg/人	25%減
紙の排出量	1.36	kg/人	26%減
産業廃棄物リサイクル率	68.3	%	3%減
LPガス消費量	61.7	m ³	5%増
電気消費量	308245	kWh	2.7%増
水道消費量	3733	m ³	7.3%増
車輛燃費	4.16	ℓ/km	10%減
重機燃料使用量	36292	ℓ	9%減



電気を最も使用する湖南リサイクルセンターにて、処理した廃棄物1トンに当たる電気使用量を昨年より削減することができました。

	処理量(t)	使用電力(kw/h)	電力/処理量 1t処理した時の電力使用量
2009年度	11,338	207,910	18.34
2010年度	12,389	202,266	16.33
2011年度	14,422	206,235	14.30

【スタッフコメント】 管理部 田中 恵子

当社は今年、創立50周年を迎えました。この記念すべき時に在職していることを感謝し、誇りに思っています。また、2005年から取り組んできたISO14001も7年目に入り、電気、水道、ガス使用料の削減と、収集運搬車輛の燃費向上等、2008年より維持管理項目に移行しましたが、今では強制ではなく、全従業員が合意の上で参画しています。今後も継続を維持し、習慣化することで、環境負荷に少しでも貢献したいと思います。

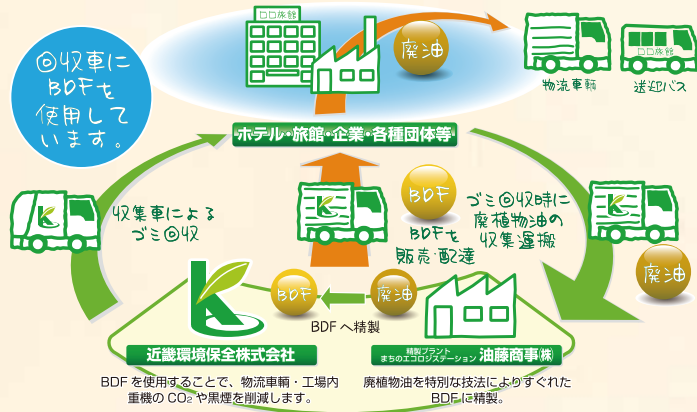


私たちの取り組み



1. BDFプロジェクト:地域における循環

29.7t
CO₂削減



【お客様 コメント】

近畿環境保全さんとは、弊社がISO14001を取得したときからお付き合いをさせていただいております。滋賀に立地する企業として、また、お客様に贅沢をさせていただき旅館業として、時代の流れにふさわしい環境配慮活動を行うために、ご指導いただき多くを学ばせていただいております。現在、弊社が取り組んでいる廃油回収BDFプロジェクトも近畿環境保全さんから声をかけてもらって進めました。今後も当館にお泊りいただいたお客様の環境保全意識が高まるようなプランの提案をしたり、地域でも取り組めるBDFプロジェクトを近畿環境保全さんのお力をお借りして推進していきたいと思っております。

お客様のニーズに合わせ、2006年から廃植物油を回収しています。その廃植物油は豊郷町にある油藤商事株式会社にて精製され、作られたバイオディーゼル燃料(BDF)を収集運搬車輛に使用しています。当グループ物流では、燃料を多く使用しているので、環境への負担をできるだけ削減するように努めています。BDFは新たに二酸化炭素を排出しないため、「カーボンニュートラル」な燃料であると言われております。

KINKANグループでは2011年度に11350ℓのBDFを軽油使用しました。これを軽油使用時と比べると29.7トンのCO₂を削減できたことになります。(※当社BDF使用量*0.00262⇒排出係数はH18年度環境省ホームページより)

またこの活動は、地域で排出された油を地域でリサイクルし再利用することにより、循環型社会が実現できる第一歩になっています。

【取り組み事例】

廃植物油の回収を様々なお客様のご協力により行っていますが、その中で、おごと温泉組合様に協力いただき、油を定期的なコースで回収しています。効率的な廃油回収活動によりCO₂削減ができ、更に地域の活性化にも繋がります。また、廃油を回収し、BDFを車輛に使用していただいている西日本高速道路メンテナンス関西様においては、油の循環にも貢献していただいております。



びわ湖花街道 代表取締役社長
佐藤祐子 様

2.カーボンオフセット

268kg/年
CO₂削減

環境への負荷を削減するために、2008年5月から内モンゴルにてカラマツの植林を行っています。植林により当社のCO₂排出量の約5%をカーボンオフセットしています。カラマツ1本が30年間で吸収できる二酸化炭素量はおよそ250kgであると言われております。当グループで、月に約8本のカラマツを植林しています。植林を通して、地球温暖化防止だけでなく、砂漠化進行の防止や土壌回復による生物多様性の確保など地球環境の保全にも努めています。スタートから2011年度末まで384本のカラマツを植林しました。これは、合計約268kgのCO₂削減に相当します。

キンカンの森



2011年



2012年

3. グリーン電力

9t
CO₂削減

当グループの中核を担う株式会社湖南リサイクルセンターの工場は使用電力の10%をグリーン電力でまかっています。省エネ・CO₂排出削減を可能にした環境配慮型のリサイクル工場を実現しています。グリーン電力を利用することにより2011年度に約9トンのCO₂を削減できました。



グリーン電力とは？

グリーン電力とは、温室効果ガスや有害ガスの排出が少なく、環境への負荷が小さい自然エネルギー、バイオマスによって発電された電力です。

4. グリーン購入

私たちの事務所では、多くの事務用品を使っています。2009年度よりグリーン購入ネットワークの会員としてできるだけ環境へ配慮した事務用品を購入するよう心がけています。2011年度に購入した商品の74%がエコ商品でした。年々割合を増やしていく予定です。



5. チャレンジ25

キンカングループは地球温暖化防止国民運動、チャレンジ25キャンペーンに参加しています。オフィスにおいて実践できるCO₂削減に向けた具体的な行動を決め、6つのチャレンジを次のように実施しています。



チャレンジ
1

エコな生活スタイルを選択しよう

当グループではクールビズやウォームビズを実践し、またスタッフはマイカップを使用しています。

チャレンジ
2

省エネ商品を選択しよう

グリーン購入ネットワーク会員として、環境への負担が少ない商品を選ぶようにしています。

チャレンジ
3

自然を利用したエネルギーを選択しよう

当グループの中核を担う株式会社湖南リサイクルセンターの工場は、使用電力の一部をグリーン電力でまかっています。

チャレンジ
4

ビル・住宅のエコ化を選択しよう

エアコンを定期的に掃除し、環境への負担が少ない設定温度を、保つようにしています。

チャレンジ
5

CO₂削減につながる取組を応援しよう

植林によるカーボンオフセット、バイオディーゼル燃料の使用によるカーボンニュートラル、グリーン電力の使用、ペットボトルキャップの分別によりワクチンを寄附できるエコキャップ推進活動への参加、そして、滋賀県の森林づくり活動などによりCO₂削減に取り組んでいます。

チャレンジ
6

地域で取組む温暖化防止活動に参加しよう

滋賀県の「琵琶湖森林づくりパートナー協定」と「草津市愛する地球のために約束する協定」を結ぶことによって、地域の温暖化防止活動に参加しています。

温暖化防止のため、ゴーヤカーテンに取り組んでいます。



ゴーヤカーテン 草津本社

【スタッフコメント】 営業部 田頭 登紀

事務所では不要な照明やエアコンを切りそれぞれの使い方を見直して、使用電力を減らすように心がけています。使っていないときでも電力を使う「待機時消費電力」にも注意をして長時間使わない機器はコンセントからプラグを抜き、待機時消費電力を極力カットしています。営業では様々な事務所に訪問します。その中で各社様々な節電取組をされていて刺激を受けることがよくあります。



森林づくり

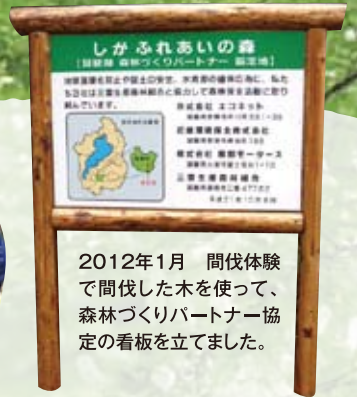
2009年10月6日、当グループと㈱エコネット様、㈱服部モーターズ様の3社が、三雲生産森林組合様との間で「琵琶湖森林づくりパートナー協定」を結びました。

この協定により、企業が森林づくりにかかる費用や労働力の提供を5年間行うことになり、森林整備の推進が期待されます。

2011年度には2回、春と冬に森林づくり活動を行いました。



2012年1月 間伐体験で間伐した木を使って、森林づくりパートナー協定の看板を立てました。



2011年5月間伐体験実施



当グループはこの協定により琵琶湖の水源でもある森林を整備し、私たちの暮らしの支えとなっている琵琶湖を守ると共に、CO₂の吸収量を増やし、地球温暖化を防止します。そしてこの活動を通して地域住民の方々との交流を深め、環境に良い地域づくりと共生、基盤づくりを行い、未来の子供たちへ健全な自然を残していけるよう努めます。

【スタッフコメント】

当社では、普段の業務以外に環境保全活動として、びわ湖のヨシ刈りや清掃活動、里山の保全活動を行っています。毎年、営業部と若手社員が中心となってこういうイベントに参加しているわけですが、地域の環境を守るという事だけではなく、地域の皆様やお客様とコミュニケーションを取れるので積極的に参加しています。日々の業務はもちろん大切なのですが、こういうイベントに参加できることは、年何回かの遠足みたいでワクワクしますし、自分達は環境に携わる仕事をしているんだということを改めて実感する非常にいい機会です。



業務管理部 情報処理課 河村 昂介



清掃活動

びわ湖の日 環境美化活動

7月1日はびわ湖の日。毎年この日に滋賀県全域から数百名の参加者が集い、湖周の清掃活動を行います。滋賀県主催のこのイベントに、当社も毎年参加しています。

2011年には、7月だけではなく、11月と12月にも湖南市と雄琴にて美化活動に参加しました。



当グループは自然環境との調和を目指す取り組みをしています。愛する滋賀県の愛するびわ湖、大切な自然の環境保全に貢献できるよう努めています。森林が元気でないと、水と土は元気にならないという考えのもと、森林づくりから始め、美化活動と水浄化に繋がるヨシ刈り活動を行っています。

環境保全活動

ヨシでびわ湖を守る活動

2010年10月より「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」のメンバーとして、ヨシ刈り活動に参加しています。東近江市と近江八幡市で、西の湖などのヨシを刈り、ヨシの有効利用とびわ湖の浄化を促進しています。



【主催者コメント】

ヨシを守り、育て、活用することの大切さを地域に広めて行くため立ち上げた「ヨシでびわ湖を守るネットワーク」も今年で4年目となります。おかげさまでメンバー企業、団体様は70社を越えてきました。その中でも近畿環境保全(株)様は、ネットワークに参加いただいて以来、毎回ヨシ刈りに参加される心強い仲間です。地元企業としてびわ湖の環境保全に役立ちたいという想いがひしひしと伝わってきます。こんな仲間がもっと多く集い、ヨシを通してびわ湖を考える機会が少しでも増えることでヨシの活用が広がり、びわ湖のヨシ原が豊かに広がっていく、そんな活動を支援していただけることを心から期待しています。



株式会社コクヨ工業滋賀
総務グループ環境担当
太田俊浩 様

琵琶湖のような一つの系から、ものを持ち出すことは浄化に働くと考えられません。多年生の草本のヨシは、成長のよい群落の場合、地上部の最大現存量が乾燥重量で2kg/m²にも達します。その植物体には窒素(1-3%)やリン(0.2-0.4%)が含まれていますので、刈り取って持ち出すと琵琶湖を浄化することになります。
(滋賀県琵琶湖環境科学研究センターのHPより)

刈り取ったヨシは、紙の原料に再生!



会社周辺 清掃活動

毎月一回KINKANグループ3ヶ所にて清掃活動を計画・実施し、工場内・工場周り・道沿いにおけるごみ拾い、除草作業などを社員全員で行い、地域美化と地域とのコミュニケーションに貢献できるよう努めています。



京都市 まち美化運動

京都営業所では、清掃活動を通して、京都市の美化に貢献しています。京都環境事業協同組合主催の清掃活動に毎年参加しています。2011年11月にも京都市におけるごみ拾い活動を行いました。

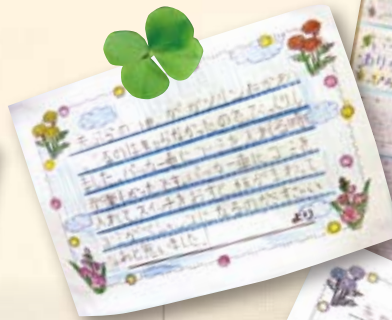


地域とのコミュニケーション



1. 環境学習

当グループでは2007年から子ども向けの環境学習を実施しています。ごみのことやリサイクルの方法などを次世代の子どもたちに伝えることは、循環型社会への構築につながると信じています。主な内容のごみ分別とリサイクル方法ですが、実際に当社車両にごみを積める体験をしていただくことによって、ごみ回収と分別された資源ごみ回収を実践することができます。また、廃植物油の精製の仕組みを本物のBDFとふれあいながら説明していますので、子どもたちは集中して聴いてくれています。



三上小学校の子どもたちからいただいた感想です



出張授業

2007年から小学校の授業に車両とともに出張しています。毎回たくさん質問をいただいておりますが、子どもたちは年々知識が増えていっていると感じています。





仕事体験

2011年11月3日に開催された「二五八祭」というイベントにおいてもリサイクル業界の仕事を体験してもらいました。



【スタッフコメント】 環境事業部環境システム物流課 主任 中村 真也

今年の二五八祭りに初めて参加しました。皆さんはごみ回収体験を楽しくやってくれたのが印象的でした。私たちは普段普通に行なっている仕事子どもたちに関わりのないような作業ですので、子どもたちにとっていい経験だったのではないかと思います。生活するには絶対出るごみはどうやって回収されるか、どのように処理されるか、わかっただけだと思います。これからも私たちの仕事を理解していただける機会があるイベントにぜひ参加したいと思いました。

子ども向けイベントに出展

草津市では2001年から毎年「草津市子ども環境会議」が開催されています。この会議は子どもと大人が身近な環境について一緒に話し合ったり、日ごろ環境への取り組みを行っている学校や市民団体、企業などが取り組みを発表・交流したりする場となっています。当グループは2011年度に2回目に出席し、スタンプラリーを通して子どもたちにリサイクルを学んでもらいました。



2. 共働作業所との取り組み

地元にあるいしべ共働作業所の障がい者の皆さんとリサイクルのための選別作業を行なっています。今後もますますこの取り組みを進めていきたいと考えています。



3. びわ湖環境ビジネスメッセへの出展

びわ湖環境ビジネスメッセは、「環境と経済の両立」の基本理念のもと、毎年開催されています。2011年は、10月19日(水)~21日(金)の3日間、長浜ドームにて開催されました。308社の会社が出展し、37,280名が来場されました。我々KINKANグループも、2011年で6回目の出展となり、廃棄物のトータルコーディネートやCSR活動についてご紹介しました。また毎年若手社員を中心に準備及び出展しており、研修の場としても活用しています。3日間、1000名以上の方々にブースにお越しいただきました。



草津エコフォーラムにおける出展

草津市では、7月1日(びわ湖の日)を含む一週間を「環境にやさしい週間」とし、市民、事業者、団体等に、環境保全についての理解と認識をより深めて、実践してもらうため、啓発活動を行っています。その一貫として毎年エコフォーラムを開催しています。2010年から当社も出展させていただき、地元の方々とのコミュニケーションする機会をいただいています。



【新入社員コメント】 営業部 福島 慎也

びわ湖環境ビジネスメッセには内定者研修の一環として参加させていただきました。各ブースを回ってみるとその出展内容は様々で、改めて環境というテーマのすそ野の広さを実感しました。また出展者側としてびわ湖環境ビジネスメッセに参加することで、ビジネスユーザーから一般の方、学生さんなど様々な方とコミュニケーションをとることができ、色々な視点から環境について学ぶことができました。びわ湖環境ビジネスメッセは環境産業に関わる良いきっかけになります。是非一度御覧ください。



4. 地元サッカーチーム「MIOびわこ滋賀」の応援



JFL(Japan Football League)で闘う「MIOびわこ滋賀」を応援しています。地元のサッカーチームであるため、地域活性化活動の一環としてMIOへの支援活動に取り組んでいます。



試合も見に行きました

5. 抱きしめてBIWAKOへの参加

2011年はびわ湖の日30周年の記念年です。記念イベントの一つとして「抱きしめてBIWAKO」が開催されました。皆で手をつなぎ、びわ湖のことを考えるイベントでした。当グループのスタッフも家族とともにびわ湖の湖岸に立ち、母なる湖と一緒に抱きしめました。イベントへの参加費が寄付金となり、滋賀県学習船建造基金「うみのこ」、社会福祉法人滋賀県社会福祉協議会及び未来ファンドおうみに寄付されました。



循環型社会の構築に向けて



1. 資源物で琵琶湖の環境保全

KINKANグループは、お客様から提供していただいた空缶やペットボトル、古紙、廃天ぷら油などの資源物を、「循環型社会創造研究所えこら」を通じ、琵琶湖の環境保全と環境意識の促進に活かしています。2011年度には、約36トンの資源ごみを寄付につなげることができました。



マザーレイク滋賀 応援寄附
 「マザーレイク滋賀応援寄附」とは？
 琵琶湖の自然と滋賀の豊かな歴史的な文化資産を次の世代に引き継ぐために使用されている滋賀県の基金です。



「えこら」の様々な場所における資源物回収活動

スーパーマーケットスター様の青空市場に参加し、買い物に来られたお客様から資源ごみを回収しています。また、スター様より排出された資源ごみによって、びわ湖の環境保全に貢献しています。また、毎日マラソン大会や国際協会のイベントなどにおいても回収活動を行なっています。



毎日マラソン大会にて



湖南市国際フェスティバルにて



スター安養寺店の青空市にて

スポンサーとして応援している「滋賀レイクスターズ」のホームゲーム会場にて、「エコステーション」と名付けた廃棄物回収場所から、資源ごみを回収し、環境保全活動を行っています。



2. 古紙で大震災支援活動

読売新聞の販売店様と共同で始めたこのプロジェクト。読売新聞を購読されているお客様から古新聞はもちろんのこと、カン・ペットボトル・雑誌などの資源物を寄付して頂いています。その販売収益の一部を寄付しています。2010年度には植林活動に使っていましたが、2011年3月11日に東日本大震災が発生したため、寄付先を変え、2011年度には大震災で親を亡くされた子どもたちに「あしなが育英会」を通じて支援活動を行うことにしました。

紙を使う読売新聞様の企業責任と、また循環型社会の構築を目指す当社とのコラボレーションで生まれたこのプロジェクト、今後もますます拡大してまいります。



【スタッフコメント】 営業部 黒崎 暢章

読売新聞の販売店様と共同で古紙回収をしているのは3年目になりました。回収エリア、回収量も増え、皆様のご協力に感謝いたします。また、今年8月には販売店様が主催されましたイベントにも参加させていただき、資源物を回収することができました。私たち、ひとりひとりが出来る事には限りがありますが、皆の力を合わせれば少しずつでも変わっていきけるのだと感じました。



循環型社会の構築に向けて

3. 滋賀レイクスターズとともに環境活動



プロバスケットボールチーム「滋賀レイクスターズ」をスポンサーとして応援しています。

ホームゲームの会場において「エコステーション」と名付けた廃棄物回収場所で可燃ごみと資源ごみの回収を行っています。資源物の売却収益の一部を「循環型社会創造研究所えこら」を通じ、琵琶湖の環境保全に寄付しています。当グループは地域のスポーツチームを応援することにより、地域との交流や協働環境活動の活性化などに貢献することを目指しています。



滋賀レイクスターズ キャプテン
小川伸也 様(長浜市出身)

【お客様コメント】

近畿環境保全様には、2010年より滋賀レイクスターズのホーム試合会場(年間26試合)にてエコステーションを設置の上、年間約50,000人の来場者に対して資源ゴミの分別回収を呼びかけています。エコステーションの登場により、我々プロバスケットボール選手も環境保全活動に対して関心が高まったように思いますし、プロ選手として地元の子供たちの良い見本になればと自覚しています。

また、私の趣味は「釣り」です。大好きな琵琶湖がこれ以上汚れてしまわないように、環境保全活動には最大限協力していきます。

今後とも宜しくお願いします!



【スタッフコメント】 営業部 吉村 祐香

ホームゲームの試合会場に行くと、小さな子供たちがたくさんいることに驚かされます。楽しく試合観戦した後、お母さんに手を引かれた小さなお子さんが、ペットボトルとゴミを分別して、エコステーションに持ってきてくれました。「上手にできたね」とお母さんに褒めてもらい、とても嬉しそうな小さな笑顔が印象的です。

また休日、びわ湖に車を走らせる時には、毎回違ったびわ湖の美しい景色に感動し、この風景がいつまでもあってほしいと願っています。50周年を迎えた節目である今、お客さまから預かった大切な“資源”を、ふるさとの水源である大好きなびわ湖に役立てられることに感謝しながら、これからも皆様と共に、資源を生かす活動を続けていきたいです。



4. エコキャップ推進活動



当グループは、2009年8月より「NPO法人エコキャップ推進協会」活動に参加し、エコキャップの送付先となっています。本活動にご理解頂いている関西の皆様より毎日たくさんのエコキャップが送られてきます。当グループは今後も発展途上国の子どもたちのためにこの活動を支援してまいります。

2kg(800個)のキャップの値段は子ども一人分のワクチンになります。ワクチンによって発展途上国の主な感染症から子どもたちの命を助けることができます。さらに、キャップをリサイクルすることによって新しく製品に生まれ変わり、CO₂削減にも貢献できます。2011年度末現在、当グループにて集まったキャップは10,012,200個(25,030kg)であり、その個数は12,515人分のワクチンに等しいです。

10,012,200 個

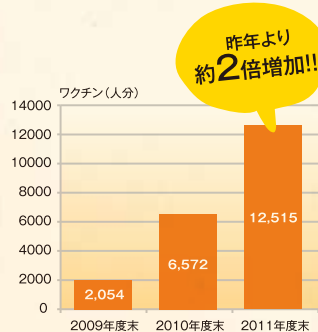


12,515人分の
ワクチン

2011年度末現在



写真提供 JCV:禁無断転載



Live!
Do You KYOTO?

Live!Do you Kyoto? という音楽と環境を結びつくイベントにてエコキャップの回収活動に協力しました。



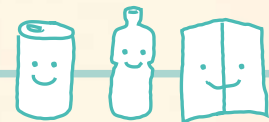
【主催者コメント】

京都のシンガーソングライター秋人氏の呼びかけで始まったLive!Do you KYOTO?」。音楽を通じてエコを考える時間をみんなで共有したい気持ちから生まれたイベントです。出演するアーティストとそのオーディエンス達で自分なりのエコをそれぞれが意識できていると感じます。会場に集まった多くのエコキャップがその証です。近畿環境保全株式会社さんとのコラボで見事にイベントとエコが結びつく事ができ非常にうれしく思います。エコキャップ集めは、ワクチンに代わる事だけに留まらず、自分たちがエコへの意識を高める絶好の手法だと思います。これからもこの音楽イベントを続けるために、近環さんのご協力が不可欠となりますので、今後ともよろしく願い致します。

星のお兄さん(本名 田端英樹 様)



3. 資源物回収運動 ～キンカン環境ポイント制度～



2004年から社内で資源物回収運動を行っており、今年で7年目となりました。資源物回収運動はポイント制度であり、缶やペットボトルなら、1個1ポイント、新聞などなら1kg1ポイントとして評価されます。近年では、資源物だけではなく、環境に関連するイベントや清掃活動に参加することでもポイントが与えられます。

一番多く持参した20人の社員を毎年新年会で表彰しています。2008年度よりISO 14001の目標の一つとしても取り組み、2011年度の目的は80ポイントでした。従業員の71%は目標を達成し、合計35798ポイントが与えられました。



【スタッフコメント】

最近、私のまわりの身近な人達は、リサイクル・エコに興味のある人、環境への意識が高い方が増えています。そんな方々(実家の家族・友人・近所の方)からの協力もあり、おかげ様でたくさんの資源を回収する事ができました。現在、弊社では、缶・ペットボトル・古紙・廃油がポイント対象ですが、今後、他の生まれ変わる物は、資源回収のポイント対象となれば、回収物が増えるイコール、ポイントも増え、幅も広がり、よい結果に繋がるのではないかと思います。従業員一人一人が環境に携わっている事を実感し、資源の大切さや物のありがたさ、感謝の気持ちを忘れずに、環境への意識が高まっていけばいいなと思います。

業務管理部 情報処理課
吉永 由香里



受賞報告 『おかげさまで 2011 年度に2回受賞しました。』

『第2回しが低炭素リーダー賞』



社会のCO₂排出量削減に寄与する製品やサービスを提供する事業を表彰し、その事業拡大を支援していきます(低炭素化事業部門)。さらに、社内のCO₂排出量を削減する先進的な取組も表彰し、その取組を県内に広く発信していきます(削減取組部門)。(滋賀県エコ・エコノミープロジェクトのHPより)
当グループは削減取組部門でリーダー賞を受賞しました。表彰式は2011年6月17日に行われました。

『第4回草津市地球温暖化防止大賞』



「草津市地球温暖化防止大賞」は、市内で行われている地球温暖化防止の取り組みを広く募集し、優れた取り組みの表彰を行うことで、温暖化防止に向けた取り組みを市内に普及拡大させていこうとするものです。(草津市HPより)
当社は今年の大賞において、昨年に引き続き、優秀賞を受賞しました。表彰式は2012年3月13日に行われました。
近畿環境保全(株)では2009年から草津市と「愛する地球のために約束する協定」を結んでいます。温暖化防止や環境保全への取り組みを約束し、草津市に毎年報告しています。

【事例発表】

2011年度に2回、受賞した取り組みの内容を事例として発表いたしました。



草津市地球冷やしたい推進協議会の総会にて



滋賀エコ・エコノミープロジェクトのエコイノベーション・セミナーにて



第三者のご意見

近畿環境保全株式会社の「環境報告書2011」と2012年度版のドラフトを拝見し、「積極的に挑戦していくグループであり続ける」というコーポレートメッセージが明確に打ち出された、わかりやすい報告書だと思いました。50年前の創業時から取り組んできた廃棄物回収の事業を着実に進化させ、多種多様な廃棄物の再資源化率の向上に向けた姿勢が伝わってきました。

特に、産業廃棄物、事業系一般廃棄物の中の資源ごみ、そして木くずのリサイクルについて、それぞれ年を追うごとにリサイクル率を高め、有価物として販売できる商品の種類が増えてきていることは、近畿環境保全株式会社の技術力や処理能力の向上の成果であると同時に、顧客である事業者の提案・協力が得られるようになってきた証ともいえるでしょう。

一方、環境ポイント運動について、スタッフ全員参加型で取り組んでいることは評価できますが、資源物になるとはいえ廃棄するモノが多く出ることを奨励してしまう仕組みになっており、根本的に廃棄物を削減することにはつながらないのではないかと、という懸念を感じました。別項目で紹介されているチャレンジ25キャンペーンの取り組みとも連動させることが可能だと思いますが、まずはできるだけ廃棄する資源量そのものを減らすこと(Reduce)ができるように心がけ、それでもダメならリサイクルするべきだと考えます。たとえば「ペットボトルではなくマイボトル」として水筒の積極利用を進めるような促す取り組みを、検討していただければと思います。

東日本大震災とそれともなう原発事故を経て、限られた資源を持続可能に有効活用することがますます求められています。そんな中、今後も近畿環境保全株式会社が、京滋におけるリサイクル市場をリードし、有限な資源をフル活用できる社会を支えていくことを期待しています。



滋賀大学 経済学部 特任准教授
高田友美 様

■プロフィール

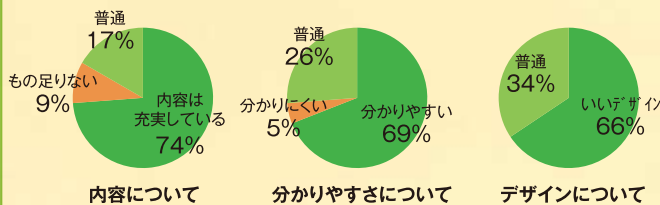
「持続可能なまちづくり」をテーマに、イギリス・東京・スウェーデンで学んだ後、滋賀県近江八幡市を拠点とした「エコ村」づくりの推進や、Japan for Sustainability・五環生活・子民家エトコロなどNPO活動にも携わってきた。現在は滋賀大学経済学部にて、学生が様々な働き方の可能性に気づききっかけを提供する講義や実習プロジェクトを担当。

「環境報告書2011」 アンケート集計結果について



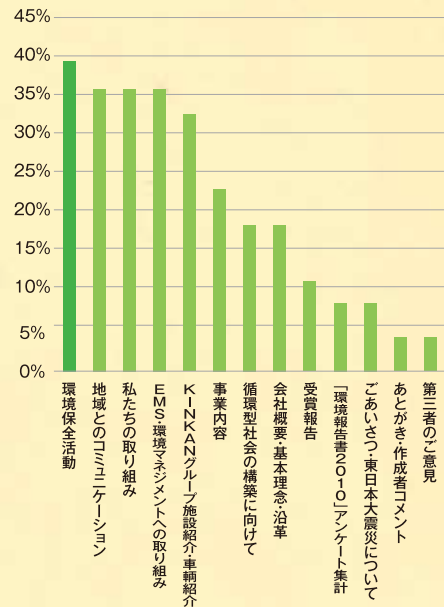
「環境報告書2011」に対し、48名(22名お客様、26名従業員)の読者様よりアンケートのご回答をいただきました。報告書の内容は「充実している」、分かりやすいと良いデザインであると答えていただいた方が最も多かったです。環境報告書の項目について、最も興味を持たれた項目は「環境保全活動」、「地域とのコミュニケーション」、「私たちの取り組み」と「EMS・環境マネジメントへの取り組み」でした。貴重なご意見をありがとうございました。

【アンケート集計結果】



【興味を持たれた項目】

「環境報告書2011」の中で、特に興味を持たれたのはどの項目でしたか?(複数回答可)



あとかぎ

以上、2011年度の環境活動・事業に関する報告書でした。2011年度は当グループにとって、地域とのコミュニケーションが豊かな一年になりました。湖北地域への事業拡大や社内での情報ポイントの目標設定を通じ、より多くのお客様に接したことで、更なる皆様のニーズを聞き取る事ができました。また、森林保全活動やびわ湖保全活動のヨシ刈り、清掃活動などにより地域の環境維持に貢献しながら、改めて地域ネットワークの強みを実感できる年でもありました。

2012年度はいよいよ当グループの50周年という節目の年です。皆様のご支援があったからこそ、ここまで社業の発展ができたことに厚くお礼申し上げます。これからも当グループは、世の中の変化とお客様のニーズに合わせて成長し、皆様の生活や事業活動に役立つ100年企業を目指してまいりますので、ご支援ご指導の程よろしくお願い申し上げます。

最後に、当グループの環境報告書は今後もステークホルダーの皆様にとって有意義な報告書にしていくために、是非ともご意見ご感想をお聞かせください。

これからもKINKAN GROUPをどうぞよろしくお願い申し上げます。





お問い合わせ

近畿環境保全株式会社 営業本部
〒520-3114 滋賀県湖南市石部口3丁目6番13号

TEL 0748-77-7288 FAX 0748-77-7299

E-mail: info@kin-kan.co.jp

URL: <http://www.kin-kan.co.jp>

担当：藤田 アニコー

www.kin-kan.co.jp

KINKAN GROUP

近畿環境保全株式会社
株式会社湖南リサイクルセンター
株式会社きぶら
有限会社ラゴ

